



すぎ七

全が、勝、負け、も
いい汗流せろ!

「児童発案」・・・子どもが創る 体育発表会

本校は、「児童発案」を大切にしています。「こんなことをしたい。」「こうなったらいいな。」と子どもが夢を描き、仲間と一緒に試行錯誤しながら、夢を実現する力を付けてほしいからです。体育発表会でもその思いは同じです。「子どもたちが創る体育発表会」を目指しています。

代表委員会の子どもたちは、「スローガンは全校児童の思いを入れよう!」と児童発案で提案し、全学年からことばを募集して完成させました。1・2年生は最後のキメの部分、3・4年生は隊形移動や入退場を、5・6年生は、音楽、振り付け、構成等、表現のほぼすべてを児童発案で創り上げました。「全員リレー(5・6年)」では、戦略を練って走順を自分たちで決め、「応援団」は、6年生の有志が「ぜひやらせてください!」と申し出て実現にこぎつけました。「係活動」でも、何をすべきか考えて準備し、仕事をしました。本校の目指している、「子どもたちが創る体育発表会」が実現しつつある、とうれしくなりました。

体育発表会終了後、杉七小のリーダー6年生にインタビューをしてみました。すると「皆で団結して一つのを創り上げたかった。」「6年生としてピシッと決めたかった。」「最後の体育発表会を自分たちで創り上げて最高に終わった。」という答えが返ってきました。仲間と力を合わせ、誇りをもってやりたいこと(夢)を実現してきたことがうかがえます。また、「来年の6年生にも、自分たちで学校全体を動かしたり、自分たちで創り上げたりして、最高の思い出を創ってほしい」と、下級生に期待する思いも出ていました。最上級生としてさらに成長したな、とうれしくなりました。

さて、体育発表会は、ただこなすだけの行事になってはいけないと考えています。昔とは違い、限られた条件の中ではありますが、その中で準備に最善を尽くす。そして本番当日、子どもは自分

校長 井口 修



全員リレーの前に、渾身の気合いを入れる6年生
「勝つぞーっ!! オオー——ッ!!」

にできることを自分で決め、それを精一杯出し切る。大人(教職員だけでなく保護者も地域の皆様も)も全力で応援する。そして勝負が終わったらノーサイド。そんな、心が熱くなり、人としての在り方を感じられる行事でありたいです。また、世代を超え、子どもも大人も一体になれるのが体育発表会です。時代の流れと共に、子どもに身に付けさせるべき力や学校に求められることも変化していきますし、様々なご要望があることも承知しています。その中で、子ども、教職員、保護者、地域の皆様にとって杉七の体育発表会はどうかあるべきか、これからも模索し続けてまいります。

この学校だよりを書く直前、6年生の子から「協力すれば(やりたいことは)できる」という感想が届きました。「やりたいこと(夢)は仲間と実現できる。」と実感できた子どもたちは、やがて大人になった時、たくましく自分の人生を切り開いていけるのではないかと、思います。これからも「児童発案」を大切にしていこう、と思えた瞬間でした。

最後になりましたが、保護者や地域の皆様には、テントの準備や片付け等を手伝っていただきました。また、参観の譲り合いにもご協力いただきました。おかげさまで体育発表会を無事終えることができました。厚く御礼申し上げます。

6月の生活目標

「室内での過ごし方を工夫しましょう」

梅雨の時期は雨の日が多く、休み時間を教室で過ごす機会が増えます。本校では、トランプなどのカードゲームを配布し、友達と関わりながら楽しく過ごせるようにしています。

その一方で、声の大きさに気を付けることや安全に配慮することなど、周囲を思いやる態度も大切に指導しています。ご家庭におかれましても、室内での過ごし方や公共の場でのマナーについて、話題にいただければ幸いです。

(生活指導主任 金井 順也)